

## 運用報告書 (全体版)

第18期<決算日2018年12月10日>

### アジア・ウェイブ マネープールファンド

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／債券	
信託期間	2010年2月22日から2020年2月10日（当初2015年2月9日）までです。	
運用方針	安定した収益の確保を目指した運用を行います。	
主要運用対象	当ファンド	国内マネー・マザーファンド受益証券。
	国内マネー・マザーファンド	本邦通貨建ての公社債。
組入制限	当ファンドの国内マネー・マザーファンドの組入上限比率	制限なし。
	国内マネー・マザーファンド	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、委託者が基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

さて、「アジア・ウェイブ マネープールファンド」は、2018年12月10日に第18期の決算を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

<運用報告書に関するお問い合わせ先>

コールセンター：0120-104-694

受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで

お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2

<http://www.am-one.co.jp/>

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			債組入比率	債券先物率	純資産額
	(分配落)	税金込み	騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
14期 (2016年12月8日)	10,011	0	△0.02	39.6	—	1
15期 (2017年6月8日)	10,006	0	△0.05	—	—	1
16期 (2017年12月8日)	10,000	0	△0.06	—	—	1
17期 (2018年6月8日)	9,995	0	△0.05	—	—	0.999491
18期 (2018年12月10日)	9,988	0	△0.07	—	—	0.998767

※△(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

※債券組入比率、債券先物比率は実質比率を記載しております。

※実質的に本邦通貨建の公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行いますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

※ベンチマークとは、ファンドの運用成果の評価基準(目標基準)となる指数をいい、約款または投資信託説明書(目論見書)において、その旨の記載があるものを指します。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

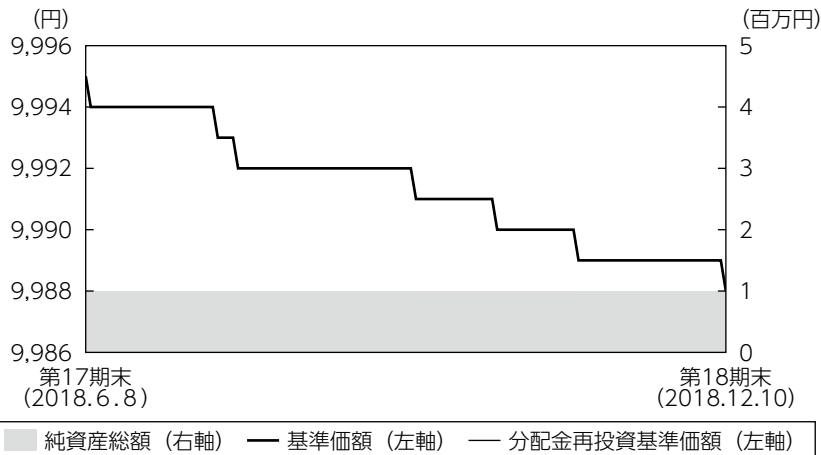
年月日	基準価額		債組入比率	債券先物率
	騰落率	騰落率		
(期首) 2018年6月8日	円	%	%	%
6月末	9,994	△0.01	—	—
7月末	9,992	△0.03	—	—
8月末	9,992	△0.03	—	—
9月末	9,991	△0.04	—	—
10月末	9,989	△0.06	—	—
11月末	9,989	△0.06	—	—
(期末) 2018年12月10日	9,988	△0.07	—	—

※騰落率は期首比。

※債券組入比率、債券先物比率は実質比率を記載しております。

## 運用経過の説明

### 基準価額等の推移



第18期首： 9,995円  
 第18期末： 9,988円  
 (既払分配金0円)  
 騰落率：  $\Delta 0.1\%$   
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注5) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

### 基準価額の主な変動要因

「国内マネー・マザーファンド」(以下、マザーファンドといいます。)を通じて、主としてわが国の短期公社債に実質的に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。マイナス利回りの債券の投資については投資を見送りました。この結果、信託報酬の支払いなどにより、基準価額はわずかに下落しました。

#### 【主な上昇要因】

特になし

#### 【主な下落要因】

信託報酬の支払い

## 投資環境

### ●国内短期金融市場

3ヵ月物国庫短期証券の利回りは日銀の短期国債の買い入れ姿勢や海外勢の需要などを睨み、マイナス圏で推移しました。なお、年末越えが意識された2018年9月末以降は需要が高まったこともあり、マイナス幅を深めました。

## ポートフォリオについて

### ●当ファンド

マザーファンドへの投資を通じて、わが国の短期公社債に実質的に投資し、安定した収益の確保を目指しましたが、マザーファンドではマイナス利回りの債券について投資を見送りました。マザーファンドへの投資配分は期を通じて概ね高位を維持しました。

### ●国内マネー・マザーファンド

主としてわが国の短期公社債に投資することにより、安定した収益の確保を目指しましたが、マイナス利回りの債券について投資を見送ったことから、期末時点の債券組入比率は0%となっています。

## ベンチマークとの差異について

実質的にわが国の短期公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行いますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っておらず、また値動きを表す適切な指数がございません。よって、ベンチマークなどは特定していないため、グラフは掲載しておりません。

## 分配金

収益分配金につきましては基準価額水準・市況動向等を勘案し、無分配とさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

### ■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第18期
	2018年6月9日 ～2018年12月10日
当期分配金（税引前）	－円
対基準価額比率	－％
当期の収益	－円
当期の収益以外	－円
翌期繰越分配対象額	100円

(注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

(注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

## 今後の運用方針

### ●当ファンド

国内短期金融市場やファンドの資金の流出入に留意しながら、マザーファンドの高位組み入れを維持します。

### ●国内マネー・マザーファンド

金利水準等に注視しながらわが国の短期公社債を中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指しますが、市場環境によっては、目標とする運用ができない場合があります。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	(2018年6月9日 ~2018年12月10日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	3円	0.033%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は9,991円です。
(投信会社)	(1)	(0.011)	投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価
(販売会社)	(1)	(0.011)	販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(1)	(0.011)	受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
合計	3	0.033	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2018年6月9日～2018年12月10日)

該当事項はございません。

○利害関係人との取引状況等

(2018年6月9日～2018年12月10日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2018年6月9日～2018年12月10日)

期首残高 (元 本)	当期設定 元 本	当期解約 元 本	期末残高 (元 本)	取引の理由
百万円 1	百万円 -	百万円 -	百万円 1	当初設定時における取得。 商品性を適正に維持するための取得。

○組入資産の明細

(2018年12月10日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首 (前期末)	当 期 末	
	□ 数	□ 数	評 価 額
国内マネー・マザーファンド	千□ 968	千□ 968	千円 978

親投資信託の決算日における組入資産の明細につきまして、後述の親投資信託の「運用報告書」に記載しております。

○投資信託財産の構成

(2018年12月10日現在)

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
国内マネー・マザーファンド	千円 978	% 97.9
コール・ローン等、その他	21	2.1
投資信託財産総額	999	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年12月10日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	999,007円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	20,812
国内マネー・マザーファンド(評価額)	978,195
(B) 負 債	240
未 払 信 託 報 酬	240
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	998,767
元 本	1,000,000
次 期 繰 越 損 益 金	△ 1,233
(D) 受 益 権 総 口 数	1,000,000口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額(C/D)	9,988円

## ○損益の状況 (2018年6月9日～2018年12月10日)

項 目	当 期
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 484円
売 買 損 益	△ 484
(B) 信 託 報 酬 等	△ 240
(C) 当 期 損 益 金(A+B)	△ 724
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 838
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	329
(配 当 等 相 当 額)	( 348)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 19)
(F) 計 (C+D+E)	△ 1,233
(G) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(F+G)	△ 1,233
追 加 信 託 差 損 益 金	329
(配 当 等 相 当 額)	( 348)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 19)
分 配 準 備 積 立 金	9,671
繰 越 損 益 金	△11,233

- ・信託報酬等には、消費税相当額を含めて表示しております。
- ・追加信託差損益金とは、追加設定をした金額のうち元本を上下する額を処理する項目で配当等相当額と売買損益相当額にわかれます。

注記事項 (運用報告書作成時点では監査未了です。)

- ・信託財産に係る期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額

期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	－円
期中一部解約元本額	－円

- ・分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益 (0円)、費用控除後、繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益 (0円)、信託約款に定める収益調整金 (348円) 及び分配準備積立金 (9,671円) より分配対象収益は10,019円 (1万口当たり100.19円) であります。分配を行っておりません。

## ○分配金のお知らせ

分配金の支払いはございません。



---

---

# 国内マネー・マザーファンド

---

---

## 第10期 運用報告書

(決算日 2018年1月15日)

「国内マネー・マザーファンド」は、去る2018年1月15日に第10期の決算を行いましたので、ここに期中の運用状況をお知らせいたします。

当ファンドの仕組みは次のとおりです。

形態	親投資信託
信託期間	原則、無期限です。
運用方針	主として本邦通貨建ての短期公社債に投資することにより、安定した収益の確保を目指した運用を行います。
主要運用対象	本邦通貨建ての公社債を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	運用による収益は、信託終了時まで投資信託財産中に留保し、期中には分配を行いません。

**アセットマネジメントOne 株式会社**

東京都千代田区丸の内1-8-2

## ○最近3期の運用実績

決算期	基準価額	騰落率		債組入比率	債券優先物比率	純資産総額
		期騰	中落率			
	円		%	%	%	百万円
8期(2016年1月15日)	10,112		0.02	97.1	—	514
9期(2017年1月16日)	10,110		△0.02	40.4	—	495
10期(2018年1月15日)	10,104		△0.06	—	—	487

※△(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

※本邦通貨建の公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。特定の指数を上回るまたは運動を目指した運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

※ベンチマークとは、ファンドの運用成果の評価基準(目標基準)となる指標をいい、約款または投資信託説明書(目論見書)において、その旨の記載があるものを指します。

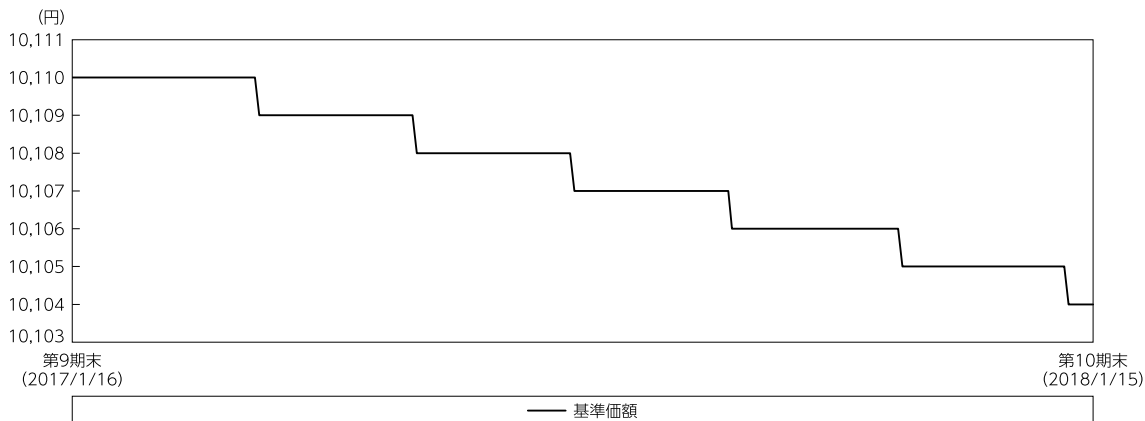
## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		債組入比率	債券優先物比率	債券率
		騰	落率			
(期首) 2017年1月16日	円 10,110		% —	% 40.4	% —	% —
1月末	10,110		0.00	40.4	—	—
2月末	10,110		0.00	—	—	—
3月末	10,109		△0.01	—	—	—
4月末	10,109		△0.01	—	—	—
5月末	10,108		△0.02	—	—	—
6月末	10,108		△0.02	—	—	—
7月末	10,107		△0.03	—	—	—
8月末	10,107		△0.03	—	—	—
9月末	10,106		△0.04	—	—	—
10月末	10,106		△0.04	—	—	—
11月末	10,105		△0.05	—	—	—
12月末	10,105		△0.05	—	—	—
(期末) 2018年1月15日	10,104		△0.06	—	—	—

※騰落率は期首比。

## 運用経過の説明

### 基準価額等の推移 (2017年1月17日～2018年1月15日)



### 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主としてわが国の短期公社債に投資し、安定した収益の確保を目指した運用を行います。基準価額は、期首10,110円からスタートし、ポートフォリオのインカム（利子）収入もありましたが、マイナス金利の影響が大きく10,104円まで下落して期末を迎えました。

### 投資環境 (2017年1月17日～2018年1月15日)

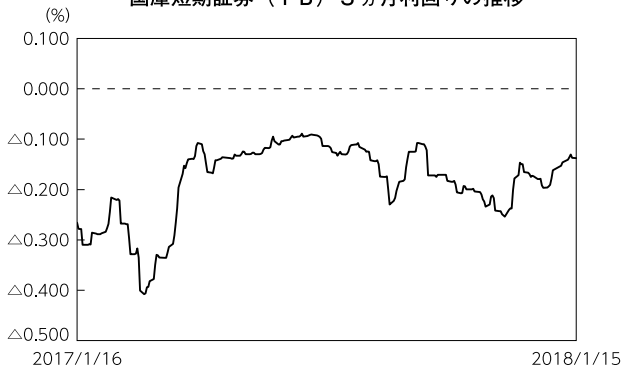
#### 国内債券市場

当期の残存3か月程度の日本国債の利回りについては、日銀の金融緩和の影響もあり、マイナス圏で推移しました。

日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が引き続き行われていることから、長期・超長期ゾーンを中心にイールドカーブのスティープ化が進んでいます。また、足元では日銀の買いオペの金額の増減を受けて市場が動くことが多くなっています。

一方、国債を除く債券については、プラス利回りに対するニーズも強いことから、0%前後の利回りに張り付いた状態になっています。

#### 国庫短期証券（TB）3ヵ月利回りの推移



**ポートフォリオについて（2017年1月17日～2018年1月15日）**

主としてわが国の公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指した運用を行いました。ファンドにとって損失の発生が明らかなマイナス利回りの債券の組み入れを行わず、期末時点での債券の組み入れはありません。

**ベンチマークとの差異について（2017年1月17日～2018年1月15日）**

本邦通貨建ての公社債に投資を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行いますが、特定の指数を上回るまたは連動を目指した運用を行っていないため、また、値動きを表す適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

**今後の運用方針**

引き続き短期公社債などを中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指しますが、市場環境によっては、目標とする運用ができない場合があります。

## ○1万口当たりの費用明細

(2017年1月17日～2018年1月15日)

該当事項はございません。

## ○売買及び取引の状況

(2017年1月17日～2018年1月15日)

## 公社債

		買付額	売付額
		千円	千円
国内	地方債証券	—	(200,000)

※金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

※( )内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○利害関係人との取引状況等

(2017年1月17日～2018年1月15日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2018年1月15日現在)

2018年1月15日現在、有価証券等の組入れはございません。

## ○投資信託財産の構成

(2018年1月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コール・ローン等、その他	487,303	100.0
投資信託財産総額	487,303	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年1月15日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	487,303,985
コール・ローン等	487,303,985
(B) 負債	516
未払利息	516
(C) 純資産総額(A-B)	487,303,469
元本	482,273,384
次期繰越損益金	5,030,085
(D) 受益権総口数	482,273,384口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,104円

## ○損益の状況 (2017年1月17日～2018年1月15日)

項 目	当 期
	円
(A) 受取利息等収益	135,192
受取利息	421,853
支払利息	△ 286,661
(B) 有価証券売買損益	△ 431,465
売買損	△ 431,465
(C) 当期利益(A+B)	△ 296,273
(D) 前期繰越損益金	5,411,133
(E) 解約差損益金	△ 84,775
(F) 計(C+D+E)	5,030,085
次期繰越損益金(F)	5,030,085

・解約差損益金とは、解約元本額と解約代金との差額で解約元本額を上(下)回って支払うため損(益)金として処理することになっております。

## 注記事項

・投資信託の期首元本額、期中追加設定元本額及び期中一部解約元本額

期首元本額	490,196,332円
期中追加設定元本額	－円
期中一部解約元本額	7,922,948円
期末元本の内訳	
中東・北アフリカ株式ファンド	10,910,842円
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド円コース	1,781,537円
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド韓国ウォンコース	227,606円
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド中国元コース	693,180円
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド豪ドルコース	792,515円
アジア・ウェイブ アジア債券ファンド通貨バスケットコース	3,960,411円
アジア・ウェイブ マネーボールファンド	968,798円
世界高配当株セレクト(目標払出し型) 毎月決算・為替ヘッジなしコース	4,951,966円
世界高配当株セレクト(目標払出し型) 毎月決算・為替ヘッジありコース	4,951,966円
世界高配当株セレクト(目標払出し型) 年2回決算・為替ヘッジなしコース	990,394円
世界高配当株セレクト(目標払出し型) 年2回決算・為替ヘッジありコース	990,394円
グローバル・アロケーション・オープン Aコース(年1回決算・為替ヘッジなし)	69,246,703円
グローバル・アロケーション・オープン Bコース(年4回決算・為替ヘッジなし)	366,963,518円
グローバル・アロケーション・オープン Cコース(年1回決算・限定為替ヘッジ)	4,947,950円
グローバル・アロケーション・オープン Dコース(年4回決算・限定為替ヘッジ)	9,895,604円
合 計	482,273,384円